

ハートネット通信

H23 年 11 月号

大竹市議会議員 細川まさこ

連絡先 電話 090-5377-4983

大竹市玖波 8 丁目 5-23

平成 22 年度決算は認定するべきものと決しました。

(10 月 17 日～19 日決算特別委員会が開催されました)

決算推移

*単位は億円 (将来負担比率除く)

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
普通会計歳入総額	119.3	140.3	146.3
普通会計歳出総額	117.6	139.5	144.9
実質公債費率 (%)	14.7%	15.4%	16.0%
将来負担比率	294.7	246.3	235.5
借入金残高	420	405	399
人件費	26.3	25.7	25.3
普通建設事業費	13.9	25.9	32.5

*借入金残高は土地開発公社を除く

H21 と H22 年の額が多いのは、国の経済対策の影響が大。

危険水域の 25%には開きがありますが、増加傾向です。一般会計の借入金返済は今後も増える予定です。

借入金残高の総額は減らしています。

人件費は努力が見えます。建設事業は大竹小学校建設 10 億円が影響しています。

私は昨年に引き続き決算委員となりました。

- ① 大切な税金が無駄なく使われていたか
- ② 市民の皆様の満足度は向上しているか
- ③ 大竹市の財政の将来見通しは？

毎回、上の 3 点に留意しておこないますが、今年は、高齢化、女性の健康、障害のある方々への支援、財政について主に問いました。以下簡単に紹介しますが、具体的な提案が不十分な部分もあり、私自身の今後の課題とさせていただきます。

大竹市の高齢化への対策が急務

平成 23 年 8 月で高齢化率 28.7%です。しかしこの数字は大竹市での平均で、私の調査では、40%を越えている地区が 11 地区、50%を越えた地区が 6 地区あります。すでに買い物や通院に困難を感じている地区もあると聞いています。

また、市の高齢者実態調査 (H22 年) によると、一人暮らしの方が 1270 人、全員が 75 歳以上の世帯が 879 世帯もあります。

地区地区の状況を丁寧に把握して、地域の皆様のお力をいただきながら、安心して住める市の体制づくりが急務だと強調しました。



ガン検診や特定検診の受診率が低い

	胃	肺	大腸	子宮	乳
大竹市	7.2	8.0	14.0	18.7	13.8
広島県平均	10.6	16.1	15.4	28.5	24.9

本市のガン検診率は、県平均と比較してかなり低いです。特定健康診断の受診率も同様に低く、H22 年度は予算を 9 割以上余らせてしまいました。

病気予防に、多くの市民の皆様に健診を受けていただけるよう、市に対して工夫を求めました。

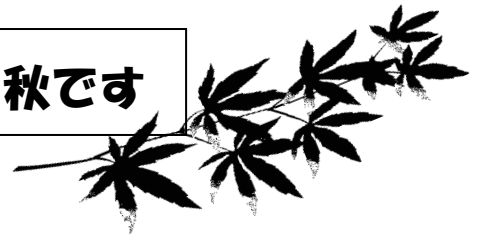


将来の財政見通しと規律は？

H22 年度は経常収支比率が改善されています。一般財源が増えた事の反映ですが、今後の地方交付税の状況や、市の行財政改革について問いました。

答弁では「この 1, 2 年交付税の国の総額は増えているが、今後は東北地方への配分が増えることも予想され、緊張を緩めていない。

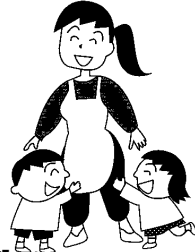
行財政改革について、現在行政内部の事務の総点検をして無駄がないか見直しをしている」とのことでした。



保育所の適正配置と民営化について

さかえ保育所は民間に移行し、施設が改修されました。他にも施設の老朽化が進んでいる保育所がありますし、保育サービスにたいする不満の声を聞いています。保育所など、子育てに係わるサービスの充実、若い世代を呼び込む魅力になると思います。

保育所の適正配置についての方針とサービスの充実を早期に図る事を求めました。



障害者の相談支援事業の一本化を

障害のある方々への相談支援事業は、市役所、社会福祉協議会、地域活動センターみらいの3か所で行われていますが、事業経費と相談件数を比べると、ばらつきが有り気になります。

相談支援センターとして1か所にまとめた方が、3人の相談員が力を合わせ、今以上の活動ができるのではないのでしょうか？障害のある方同士の相談事業（ピアカウンセリング）の充実も合わせて要望しました。

玖波駅西口整備と玖波小学校の耐震化

玖波地区在住の議員3名で、玖波地区の活性化、子ども達の安心・安全の確保をするという一致点で動いています。

H22年度は、ロータリー予定地を松ヶ原と玖波の財産区より資金を提供していただき購入しました。今年度は調査設計とJRの土地購入の予算を付けています。早期実現にむけて引き続き後押しを続けます。

玖波小学校の耐震化は、いまだに方向が決まっていません。現時点で、私たちは玖波中との小中一貫校の方向が望ましいと考えています。早く方針を出すよう要望しています。

11月のおしゃべりサロン
11月27日(日) 14:00~
コミュニティサロン玖波



2つの勉強会に参加しました。

地方が元気になる勉強会 in 神石高原町

私が所属している広島クラブ（県内市町議員の政策研究会）の秋の勉強会です。高齢化率42.3%と本市のかなり前を走っている神石高原町のまちづくりと、町議会の事業提案について勉強してまいりました。

私が注目したのは、「地域再生戦略会議」を開催し、町外部の人材とネットワークを活かしてユニークな施策を実現したことです。

市町村議会議員研修会

（社会保障・社会福祉コース）

岐阜県大津市にある全国市町村文化研修所のセミナーです。全国から66名の市町村議会議員が参加しました。4泊5日の日程で、講義と演習が朝から晩までみっちり行われました。

講師陣は殆んど元省庁の役人で、社会保障の制度設計をしてこられた方々です。

「10年後20年後は人口減と超高齢社会になることがほぼ確定した今日、将来にわたって医療・介護制度を持続するために市町村がこれからするべきことは何か」が今回の大きなテーマでした。

2050年、日本人の平均寿命は女性90歳、男性84歳（現在より5歳長生きになります）。人口は9千万人、高齢化率40%と推計されています。これだけでも憂鬱になるのに、現在のレベルで社会保障制度を維持するためには、税金と保険料の負担増は避けられないそうです。

憂鬱な講義の後、班に分かれて「市町村のすべきこと」について知恵を出し合ったのですが、講師からは「考えが甘い。月並みなことで何とかなるレベルではない！」と辛口の批評。

あっと言う間の5日間でしたが、全国に志を持った議員仲間ができてとても嬉しいです。